

今月の一言 NO.220

キーワード：心田を耕す

創意工夫や努力を忘れないためには、順境に驕らず、逆境に怯まない心を持たなければならない。小さな変化に敏感であるために、私は二宮尊徳の「心田を耕す」という教えに惹かれます。

私たちが生きている世界のあらゆる荒廃——雑草が生い茂って土地が荒れ果ててしまうような状態——はすべて心が枯れていたり廃れていたりすることに起因すると、二宮尊徳は説きました。

だとすれば、私たちはどうしたらいいのか。

心の田んぼを耕すのです。

田んぼや畑と同じように心も耕していかないと、ヒビが割れて栄養不足になってしまいます。

干からびってしまった気持ちで、誰かに優しくできるでしょうか。手を差し伸べようと思うでしょうか。隣人と水を分け合うよりもまず、自分の喉の渴きを潤そうと考えるはずです。優しさや労りの気持ちが、広がっていきません。

キレイに整備されたグラウンドを見ると、「心田を耕すとはこういうことだな」と思います。畑に種を蒔く前に、黒土を耕してデコボコをなくすことにも似ています。

著書：栗山ノート 著者：栗山 英樹

こうじまおお
好事魔多し

謙虚に努力を重ねる

令和2年4月24日

さいのう とおる

追伸：新型コロナウイルスが世界全体に感染しています。各自が自覚を持って行動して対応をお願いします。異常事態と捉えるのではなく、こんな事も起こると思い行動しましょう。